

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 長期間出現したオカヤドカリ類（甲殻類，異尾類）の幼若個体

久保田 信*

Shin KUBOTA : Long term appearance of juveniles of *Coenobita* spp. (Crustacea, Anomura)
at “Kitahama” beach in front of the Seto Marine Biological Laboratory,
Kyoto University in Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

和歌山県白浜町沿岸は熱帯系のオカヤドカリ類の自然分布の北限にあたり，よく成長した個体が2011年より例年決まって夏から秋に出現する（久保田，2011a, 2012 a-c, 2013）。一方，ごく小さな貝殻（殻長数 mm）に入ったオカヤドカリ類の幼若個体は，毎年ではないが，白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”では秋口に発見されることを確認している（紀伊民報，2006；久保田，2011b）。今回，ここで長期間の出現があったので記録する。

材料と方法

京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で，2014年の1月6日から11月30日までと同年12月14日から12月27日までのほぼ毎日1回，この類の出現を目視調査した。特にオカヤドカリ類が頻繁に出現する船着き場の石組付近で集中的に調べた。11月30日の気温は実験所研究棟前でプッシュ式最高最低温度計を用いて測定した。

結果と考察

2014年には10月22日に初めてオカヤドカリ類のごく小さな個体の出現があった（図1）。2011年度の調査時，このような幼体が最初に発見されたのが10月16日であったことから（久保田，2011b），この頃に当該調査区域にオカヤドカリ類の幼体が出現すると推察される。

2014年10月22日以降は11月30日（気温は最低10.5℃，最高18.8℃）まで，ほぼ毎日，ごく小さな幼体のみの出現が継続して見られた。目視個体数はどの場合も少数で，最多でも17個体であった。ただし，石組の隙間の肉眼で見えない箇所にカウントできない個体が潜んでいる可



図1 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2014年10月22日に出現したオカヤドカリ類の幼若個体

能性があり，実数はもう少し多いと推察される。

12月中旬になると船着き場は強い北西の季節風で石組みの上部付近まで継続して砂にすっかり埋もれてしまい，オカヤドカリ類は見出せなくなってしまう。そこにいたオカヤドカリ類は，砂に埋もれた状態となっている場合，冬眠するか，凍死するかで，陸側へ移動できた場合もあるだろう。なお，中形以上のオカヤドカリ類は反対側の瀬戸臨海実験所“南浜”と異なり，当該調査区域に出現したことがない。

引用文献

- 紀伊民報. 2006：国の天然記念物オカヤドカリが最多
北限近くの白浜過去10年で夏の高水温が影響か。
11月12日付1面。
久保田 信. 2011a：ムラサキオカヤドカリ（甲殻類，
異尾類）の海岸での本州初の幼生の放出の確認。日

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

本生物地理学会会報, 66, 253-256.

- . 2011b: オカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2011年秋季に再発見. 瀬戸臨海実験所年報, 24, 49-50.
- . 2012a: ムラサキオカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の越冬個体を京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”で2012年春に再発見. 瀬戸臨海実験所年報, 25, 36-38.
- . 2012b: オカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類)

の和歌山県白浜町番所山付近への出現. 日本生物地理学会会報, 67, 209-213.

- . 2012c: オカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の和歌山県白浜町における初秋季の出現時刻. 日本生物地理学会会報, 67, 215-217.
- . 2013: ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の和歌山県白浜町海岸での幼生放出記録. 日本生物地理学会会報, 68, 121-123.